

女性器の機能とアピアランスを考える

企画者のことば

永田知映^{*1} 岡本愛光^{*2}

女性の外陰部の見た目や女性器の機能については、これまで公に語ることがはばかれてきました。そのようななか、「恥ずかしい」、「誰に相談していいのかわからない」と、人知れず悩みを抱えている女性も少なくないと想像されます。このような女性の悩みの解決の一助となりうるのが、2000年代になって注目され始めた比較的新しい分野である婦人科形成・美容です。婦人科形成研究会によると、婦人科形成・美容とは「思春期から老年期における女性特有の問題を、主に女性器周囲を対象として、形態的および機能的に修復し、整容的によりきれいにすることによって生活の質を改善し、ウェルビーイングを実現することを目的とした専門領域」とされています。

近年、女性の生活の質(QOL)向上やウェルビーイングに関する意識が高まっており、様々な医療機器が世に出され、保険診療外の治療が行われています。一方で、これらすべてについて安全性や有効性が確立しているとはいえず、一般女性にとっても、医療者にとっても、判断が難しい時代になっているのではないのでしょうか。妊娠・出産に伴う女性器の機能の変化や尿漏れ、更年期・閉経後の外陰部の諸症状や性交痛など産婦人科医にとって身近なところから、女性の性科学、そして女性器の外観に対する形成外科的アプローチなど新しい領域まで、産婦人科医として知っておきたいことを、各専門家の先生方にご教示いただきました。

^{*1} Chie Nagata 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座(講師)

^{*2} Aikou Okamoto 東京慈恵会医科大学(名誉教授)/国際医療福祉大学(教授)/医療法人財団順和会山王病院(病院長)